

令和6年度 町政執行方針



3月7日から開催された第1回町議会定例会において、岩村町長が、令和6年度の町政執行方針と予算編成概要を述べましたので、お知らせします。

令和6年第1回町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行に対する基本姿勢および考え方、ならびに令和6年度予算概要について申し上げます。

私も早いもので町政3期目となる任期の折り返しが過ぎました。

八雲町の人口減少、少子高齢化の進行を少しでも食い止め、鈍化させるためには、何といたっても産業の活性化と働く場所をつくることが重要であると考え、施策を推進してまいりました。

農業においては、生産資材価格の高騰など厳しい状況が続いておりますが、八雲町の基幹産業を守り持続させていくための施策を生産者、関係団体等と連携し推進してまいります。

また、担い手の確保・育成については、株式会社青年舎

大関牧場、八雲町農業担い手育成センターによる農業研修、新規就農への取り組みを支援してまいります。

漁業については、ALPS処理水海洋放出に伴う風評被害の影響を注視し、各漁協および水産加工業者等と連携し対応してまいります。

また、北海道初のトラウトサーモン海面養殖事業および種苗生産については、八雲町の産業振興はもとより、道南をはじめとするサーモン養殖事業をけん引する役割を担い、前進させてまいります。

商工業については、物価高騰の影響による町内消費の低迷に対して、「物価高騰対応プレミアム商品券」を発行し、消費喚起を促進してまいります。

また、中小企業・小規模事業者の活性化を図るため、「中小企業等設備導入支援事業」を展開し、設備投資によ

る生産性の向上や、起業・創業・事業承継に伴う支援を行ってまいります。

脱炭素社会の実現に向け、「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言し、太陽光発電、バイオマス発電が稼働しておりますが、令和6年度は、熊石平田内川における小水力発電施設が稼働する予定であり、民間活力との連携による再生可能エネルギー導入を推進してまいります。

また、檜山沿岸の洋上風力発電事業についても、関係自治体等と連携して取り組んでまいります。

北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備については、駅舎のデザインが決定されるとともに、駅周辺整備計画を策定し、八雲町の新たな玄関口としての魅力づくりや、新幹線の駅がある町としての優位性を活かした施策を検討してまいります。

新役場庁舎等整備事業については、旧国立病院機構八雲病院の建物を解体し、令和7年度からの建設工事着手に向け準備を進めてまいります。能登半島地震は尊い命を突

然奪い、甚大な被害によってまちのすがたは一変してしまいました。当町の防災体制の強化を図るため、令和6年度に防災専門部署を新設するとともに、防災専門官の任用を目指します。

「ふるさと応援寄附金奨励事業」については、町内経済への波及効果や貴重な財源としてまちづくりに活用させていただいていることから、全国に向けたPR活動を推進してまいります。

令和6年3月に「木彫り熊発祥100周年」を迎えます。木彫り熊誕生の歴史に触れるとともに、その価値や魅力を改めて感じていただき、記憶に残るような取り組みを行ってまいります。

八雲総合病院は北渡島檜山医療圏の中核病院としての役割を果たすとともに、町民の健康保持および福祉の増進向上を基本に運営してまいります。

また、より一層の効率的な病院経営と経営健全化の早期達成に努めてまいります。

熊石国民健康保険病院は地域のかけつけ病院としての